

教育指導課便り

平成22年11月30日発行

第9号

函館市教育委員会学校教育課発行

プロポーザル授業を実施しました。

過去数年のCRT検査の結果を踏まえ、課題解決に向けて、教育指導課の指導主事が授業を提案する取組「プロポーザル授業」を11月15日と18日に公開し、18日に開催した教育方法研究会で説明・協議を行いました。

多数のご参観・ご参加をいただき、ありがとうございました。

詳細は、「学習状況調査実施報告書」でお知らせしますが、概要を以下に記します。

国語

授業者：湯川小学校 新沼 誠子教諭（第3学年）

【提言の意図】児童が見通しをもって学習に取り組めること、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせるとともに、言語活動を通して学習した内容が活かされることを目指し、単元構成の工夫を図った。

【授業の概要】絵文字発表会で自分の作った絵文字の特徴を発表するために、「説明的な文章を要点や細かい点に注意しながら読む」言語活動を通して、分かりやすい説明の仕方をとらえるという学習計画のもと、中心となる語や文を書き出し、段落の要点をまとめた。

【参観者の声】

- 目的や見通しをもった学習計画の必要性や、「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」ことをあらためて感じた。子どもが作る「言葉じてん」は参考にして取り入れたい。
- 学習常規や日常の積み重ねをしっかりと身に付けることが確かな学びにつながると感じた。
- 情報を抜き出しはできるが、自分なりに解釈し発信することの難しさを感じた。

算数

授業者：千代田小学校 竹内 昭夫教諭 佐々木 かおり教諭（第6学年）

【提言の意図】児童が意欲的に問題解決的な学習に取り組み、既習事項を基に、見通しをもって考えること、数量について多様な見方や捉え方をすることができるように、実際の生活に即した課題から定義に気付いていく単元構成とした。

【授業の概要】単元の導入にあたり、クリップの個数と重さの関係を考えるという身近な課題を設定し、児童に解決のための活動を促した。児童は多様な解決方法を見出し、その結果を基にクリップの個数と重さの関係（「比例関係」）を説明し、理解を深めた。

【参観者の声】

- 児童が休むことなく2量の関係について、思考をめぐらしている様子がわかった。
- 教師があまりしゃべらず、子どもたちの発言を中心に授業が展開されていく様子が驚いた。
- TTが機能しており、個に応じた指導がなされていた。付箋を利用した情報交換が良かった。
- 「学習常規」はもちろん「既習事項の定着」や「自力追求の力が身に付いていること」等が前提となる授業であり、指導の積み重ねがなければ実践することは難しいと感じた。

特別活動

授業者：赤川中学校 三河 正志教諭（第2学年）

【提言の意図】学級集団の向上（よりよい環境の形成）が、学校生活全般（生活・学習）に取り組む意欲や態度をはぐくむ基盤であると考え、自己有用感を高める場・話し合いの基礎作りとしてのブレインストーミングを用いて、子どもたち自身で集団を作り上げるプロセスを体感させるための授業を提案した。

【授業の概要】4人グループに分かれ、「よりよい学級にするために何をすべきか」についてブレインストーミングにより意見を出し合い、分類・発表することで、次時に設定されている学級討議の議題を抽出させた。

【参観者の声】

- 個人の意見を吸い上げるための小グループでのブレインストーミングは効率的で効果的だった。
- 子どもたちの授業に取り組む姿勢から、日常の指導の素晴らしさを感じた。
- ワークシートの効果的な使用と、グループ内の役割分担のよさが印象に残った。
- 全体での発表交流の時間を増やすことで、より内容の濃いものになると感じた。

情報提供

○ 国立教育政策研究所の「評価規準の作成のための参考資料（小学校）」について

このことについて、国立教育政策研究所のHPに公開されました。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryou.html>

学習評価については、9月6日付け事務連絡でデータを送付したところですが、授業改善に向けて適切に理解することが大切です。

本資料を参考に、評価規準を位置付けた「小学校教育課程編成資料」がまもなく完成予定ですが、本資料も是非御活用ください。